

令和 4 年度臨床研修病院の募集定員の算定方法（案）に係る臨床研修病院の意見及び県の考え方

	提出された意見（要旨）	県の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> ・県の算定方法案は一見合理的に見えるが、一部病院に不合理な結果となっている。<u>マッチ率のわずかな上下により明暗が分かれる算定方法は、公平性を欠いている。</u> ・<u>定員を削減するのであれば、すべての施設が一定数の削減を受け入れた上で、岡山県内医療の貢献度や病床数、病床稼働率、実習施設・指導医数など教育環境の整備状況も踏まえて定員数を検討すべきと考える。</u>新型コロナウイルス感染が拡大している中、その対応を積極的に行っている施設は、今後の県内医療の維持に欠かせない存在である。研修内容の実態調査もなく、単なる数字合わせで定員削減されるのは遺憾である。また、現実に対応において研修医の存在は間接的に大変大きいものがある。 ・<u>自治医大卒業医師は、別加算でなく按分に含めて計算すべきである。</u> ・令和 2 年度から 3 年度に定員削減する際にも、多くの議論の上に各病院がそれぞれ妥協しあった結果、採用枠が決定されており、それを敢えて崩すのであれば、すべての施設が納得できるような説明をしていただきたい。これは、次年度以降も各施設に関わる問題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県としては、将来にわたる安定的な臨床研修医数の確保に向け、採用実績等を基にした算定方法を定め、バランスのとれた公平な運用を行うこととしています。また、算定に用いる実績の対象期間についても、一時的な多寡を平準化するため 5 年間とするとともに、最新の状況を反映させるため直近年度の実績を反映することとしています。 ・医療行政に貢献していること等を配分ルールに採用するのは一つのアイデアですが、採用する指標の種類やその反映方法等については、時間を掛けて議論を重ねる必要があると考えます。 ・自治医大卒業医師は、へき地医療機関での勤務が予定されており、県職員として人事配置によりへき地医療拠点病院において臨床研修を行うものであることから、別枠での取扱いとします。 ・マッチ実績については、学生のニーズや施設のキャパシティ、指導体制を反映した指標であり、臨床研修病院の意見集約を図る中で具体的に主張のあった、研修希望者の意向も反映させるべきとの意見を踏まえ、算定に含めることとします。（マッチングの中間発表については、途中経過であることから参考指標に留めるべきものと思料） ・採用実績やマッチ実績による募集定員の算定を行うことで、各病院の中で相対的に採用率やマッチ率が高い病院においては、前年度比で募集定員が増加する場合があります。なお、各病院の募集定員については、決定後の振替は制度上できないこととなっています。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>過去 5 年採用実績で按分することを希望する。</u>都道府県別定員上限は、過去の採用実績により決定されており、前年度の実績は保障されることとなっている。岡山県の採用人数が減少した場合、それ以上の定員上限の配分はなく、一度減少した定員数は二度と増員できない仕組みになっていることを重要視するべきである。<u>マッチ者数は実質的な受入人数や体制を反映するものではなく、2 次募集、3 次募集を含めた最終的な採用実績が、応募者ニーズ、施設のキャパシティ及び指導体制を反映していると考えられることから、各病院の定員数の検討における根拠として適切であると考える。</u> 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>今後も過去 5 年の採用実績数、マッチ実績数を基にするのであれば、各病院の定員が減少することはあっても、増加することはないのではないか。</u> ・医師確保の観点からも初期臨床研修医の獲得は非常に重要である。<u>過去 5 年の採用実績数、マッチ実績数に加え、中間発表の結果（中間発表における 1 位希望者数）も募集定員を算出する上での指標として検討いただきたい。</u> ・<u>採用率、マッチ率の低い医療機関の募集定員を採用率、マッチ率の高い医療機関へ振り分けることも検討いただきたい。</u> 	